

博物館活用カード

活用学年及び時代	小学校 6 年 中学校	縄文時代
活用資料コーナー及び資料名	縄文カレンダー、石ぞく、石ざら、丸木舟、石錘、釣針	
資料についての解説	縄文カレンダー…季節によって、旬の物を食べていたことがわかる。 石ぞく…大きさや形から、捕る獲物によって工夫していたことがわかる。 石ざら…木の実等をすり石ですりつぶす際に用いた。 丸木舟…川越の老袋で昭和 27 年に発見されたもの。全長 5m、幅 60cm。 石錘…網の錘に使ったもの。 釣針…動物の骨などを使って加工したもの。	
学習内容	縄文人の生活(食) ・縄文人の食べる上での知恵や工夫。 ・今の私たちの生活と関わりがあること。	
〔博物館での学習〕 ①縄文カレンダーをもとに、いつ、どんなものを食べていたのかを調べてみよう。 ②どんな道具をどのように作ったか。作った道具をどのように使ったのか。とったものをどのように料理したのか。考えてみよう。 ・鹿やイノシシなどの動物の場合 ・魚の場合 ・木の実の場合 ※一つ一つの行動を箇条書きにしながら手順を追っていくことによって、疑問や発見が出てくる。		
評価の観点	・どの捕り方を調べるか自分で選択し、資料を見ながら食べるまでの手順を書こうとしている。関心・意欲 ・資料を観察することによって、作り方や捕り方などを考えていくことができる。また、自分たちの生活との関わりを考えることができる。思考・判断 ・縄文人の知恵や工夫に気付くことができる。知識・理解	
活用のための留意事項	・ワークシートとともに教師の助言等が必要。あるいは、手がかりを得るためのヒントカードを個々に応じて配布する。 ・とり方やとる物、食べ方等について資料をもとにしながら予想できるよう助言する。	